

海外事情

◎道路並木に就いて

レギナルド・レーベス氏の説

今日道路に並木を植栽することを奨励するのは、道路技術並に一般の輿論であるけれども、眞に並木と道路との關係に就て、知つてゐる人は未だ極めて少い。並木は不用であるとした昔の道路築造者は、道路工學の見地に於て道路を築造した者は稀であつた。彼等は單に路線の改良のみに關與して居たため、其の改良路線たるや、良好なる道路に

改修するに必要な工事と言ふ點から見れば、寧ろ裸の土地に於ける道路よりも更に悪い状態にあつた。例へば是等昔の道路の大部分は其の兩側に小堤防の如きものでがあつて、而も幅員は狭く生籬やうなものや、雜木が繁茂してゐたから、路面乾燥の必要上等生籬を刈込み雜木を伐り倒すことを急いだのであるが、其の後良好なる側溝を設けて

排水を充分にし、且つ堅き路面が出来て以來は、有害な生籬や雜木の整理は實行されなくなつて、並木と道路との關係はとりもなほさず改良前の昔の道路と同様になつた。然しながら並木は暑き夏の日に路面の平均及最高温度を著しく低下し、且つ恰も屏風の如き作用を爲して、道路に及ぼす風雪降霜の害を甚しく低減する効果偉大なることが、道路關係者に認められたに相違ない。

著者は已に十八年前に於て並木の効果として、夏季に於ける温度の昇騰を防ぐこと、屏風の如き働をして風雪霜害の輕減上缺く可からざること、水縮「マカダム」道路の場合に降雨後徐々に路面を乾かし得る利益及生籬及並木が降雨量に關して相當効果ある事實に就て委しく説明したことがあつた。其の當時生籬の問題に就ては高い生籬の影響更に車道に隣接する低い生籬が路面の霜害を防止するに効果あること及適當に生籬を設くれば、車道の風雪の吹き溜りを防止し且つ歩行者及自轉車乘には此の籬が防風の効果をなすものであることを述べたことがあつた。又道路が過度

の濕氣を有する原因に就ては、研究の結果深き切取の場合
とが車道に接近して石造壁又は打詰杭がある場合とかであ
るが、特に路面が水平に過ぎた事が重なる原因であること
を知つたが、道路上に懸垂する並木でもあれば更に路面の
乾燥を不良ならしめるので、時としては並木が路面の濕潤
する主要原因の如く禍信する向もあつたが是は大きな間違
である。懸垂する並木は兎角其の側片又は兩側に壁が設け
てあつて、空氣の流通が悪いやうな所に有り勝であるから
こんな誤解をしたのも無理もない。

吾人は道路を美化することを熱望するものであるけれど
も、單に美化のみに謬泥して、並木と道路との關係に就て
何等理解する處なかつたならば、道路並木は道路に却つて
不都合を生ずる場合があるに相違ない。萬一道路技術者に
して單に旅行者を楽しめるため並木を植ゑる事が彼等の要
望してゐる總であるとすれば、必ず吾人は其の結果遺憾を
感ずるに相違ない。之に反し道路並木の植栽に當つて道路
の維持上の關係及び地方利用者に快感を與ふるやうに考慮

を拂つた計畫と方法とを用ふれば其の結果萬人の歡迎を見
るに相違ない。美觀を増す爲めには、並木は地方の風景や
地方の事情に及能く調和させねばならぬ、斯くしてこそ周
圍との美をして愈々美化し、其の結果たるや單に並木の路
面に及ぼす効果のみを期待して植栽した以上の満足な結果
を擧ぐることが出来るに相違ない。並木に能く裝飾的と言
ふ言葉を使はれるが、是の言葉は法律に依て表はされた意
味の場合の外は、道路の行詰から除かねばならぬ。

並木の美を尊重せしめ且つ並木に或る格式を與ふる事が
必要であるとの法律上の觀念は、極く最近公的に認めらる
るに至りたるため、並木の直接の効果を基本とした考へ方
で規定した範圍を脱して今日では道路並木の取扱を爲すを
植栽し且つ手入れをして居る次第である。

十八年前に著者が並木に依て生ずる結果に關して觀察し
結論を生じたる事は現今の「ター」締「マカダム」及瀝青
質路面に就ては當らぬとの議論があるかも知れぬが是は決
して左様ではない。

「ター」及び「ターマカダム」道に及ぼす道路並木の影響に就ては特に注意を拂はねばならぬ。瀝青質舗装の場合に於て種々の仕様書を用ふことは霜害を考慮するよりも夏季に於て凹みを生ずる關係を考究する方が大切である。即ち並木の價値は春秋に少く夏季に多い。然しおく霜や凍た霧や若くは霧雨で路面が滑り易くなることは、水締め「マカダム」道の場合に比して上記の舗装は更に悪い結果を生ずる。即ち並木の價値は冬季及早春に於て著しい。

瀝青質舗装をして炎暑に抵抗し得るやうに築造することは出来るかも知れぬが之は望ましい事ではない。何となれば斯る舗装は多くは餘り緻密硬固に失し、天候の如何に拘らず常に滑り易いから斯る舗装道路に並木があれば之に依て、路面の温度の上昇を防げ得るから、他の事情が許すなれば比較的軟き瀝青結合劑を使用することが出来る等、一般に效果大なる路面を經濟的に築造し得る利益がある。終日蔭になつてゐなくても數時間蔭になつてゐれば自然路面の温度を低下し得るから、斯る場合でも相當の效果ある事

は勿論である。混凝土道路の築造に當つて、最も困難に感ずる點は温度に依る伸縮の影響であるから、並木で路面の温度の低下を圖ることは最も大切である。

「ポプラ」は並木としては良くないが、併し生長の速な樹種であるから、並木の効果を早く得度いと望む場合には適すから生長の緩い樹種と交互に植ゑて適當の時期に「ポプラ」を除くことも一つの方法である。

並木として果樹を奨勵する向があるけれども、此の種の樹木は果實を熟させ度い自然の要求からして、夏に於て餘り日蔭とならず落葉後に於ては、防風防雪の作用乏しく且つ下枝が多くて通行に邪魔になり、いたずらな子供や鳥から荒されて、熟した果實を思ふ様には獲れず、又沿道は一般に花や果樹が植つてゐるに適せないものである等の缺點とがある。

並木の高さに就いてはどんな高さにも適してゐる樹も種あるから一般に論じられぬが、生長するに従つて垂れる如き樹種は避けねばならぬ。